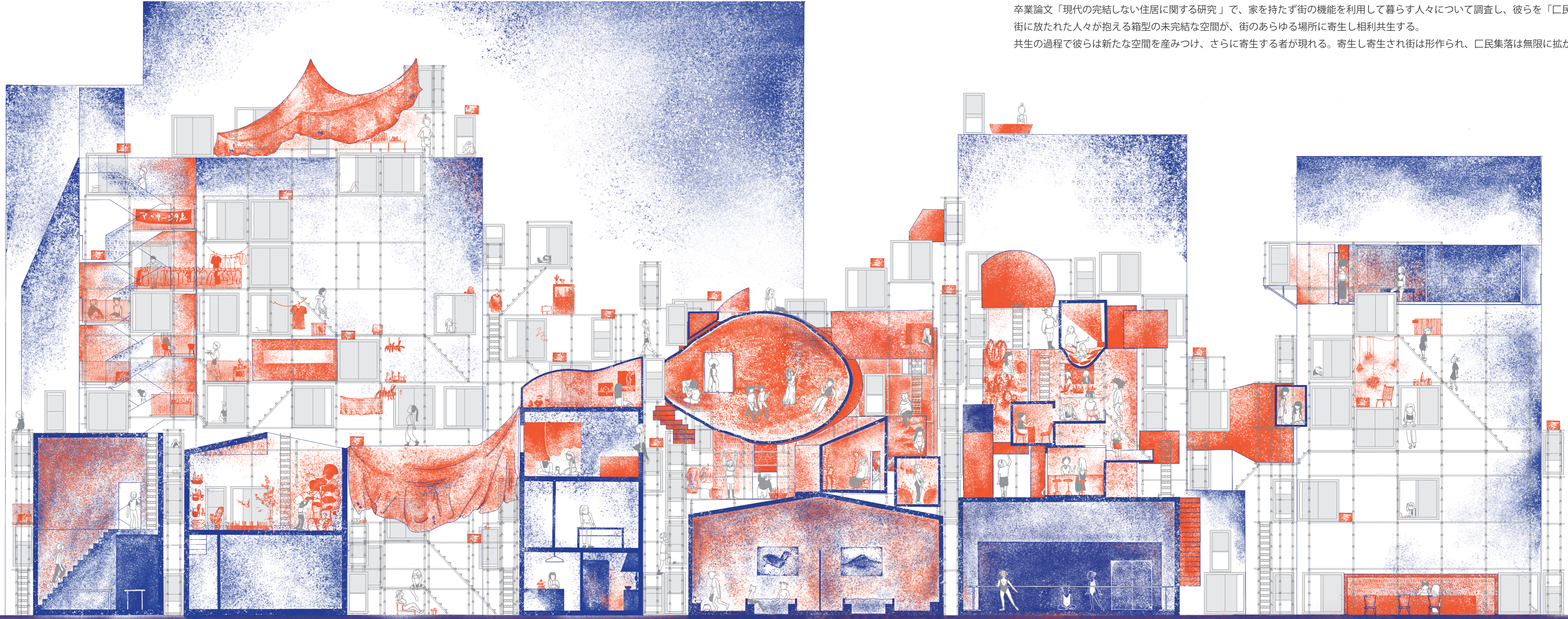


卒業論文「現代の完成しない住居に関する研究」で、家を持たず街の機能を利用して暮らす人々について調査し、彼らを「**匚民**」と名付けた。街に放たれた人々が抱える箱型の未完成な空間が、街のあらゆる場所に寄生し相利共生する。共生の過程で後は新たな空間を産みつけ、さらに寄生する者が現れる。寄生し寄生されれば形作られ、匚民集落は無限に広がる。



断面図 S=1/100

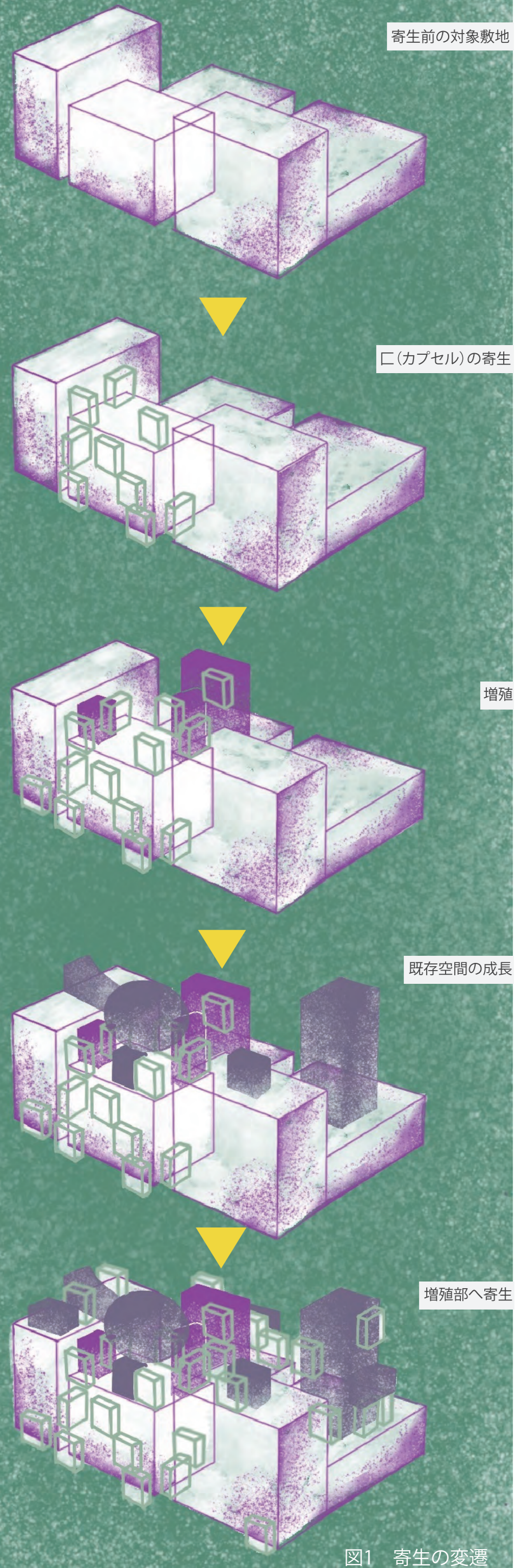


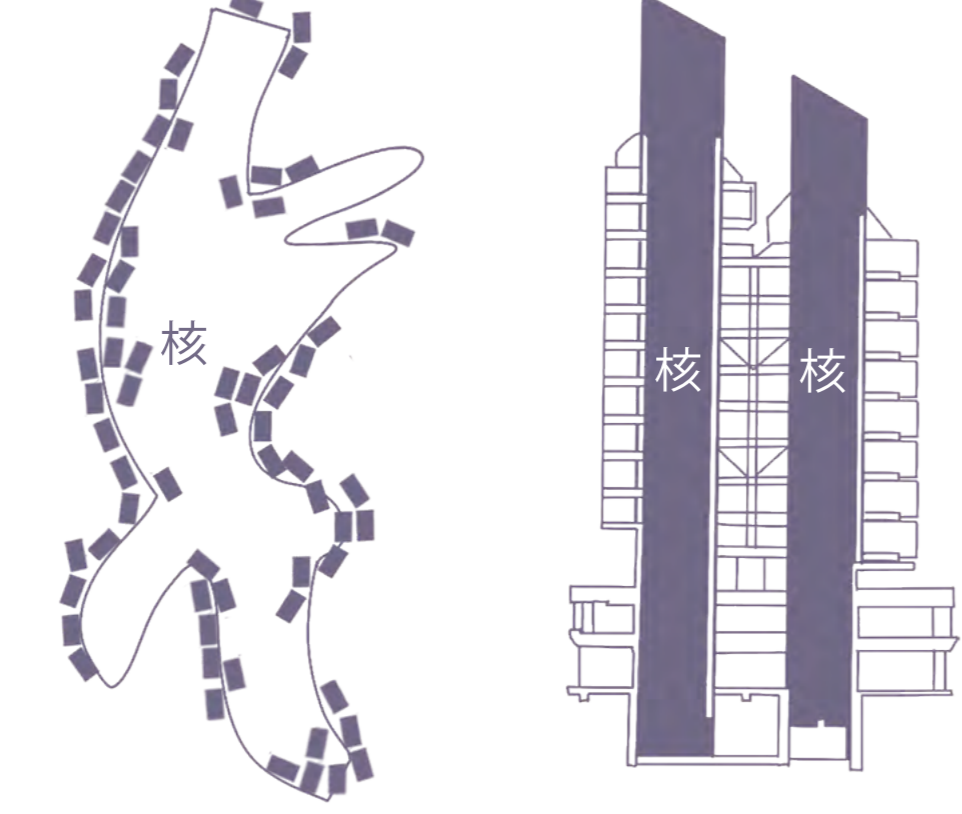
図1 寄生の過程

卒業論文「現代の完成しない住居に関する研究」で、現代の一般的な住居を「完成した住居」とし、完成した住居に対して対極の住居を「完成しない住居」とした。完成した住居とはLDKを基準としており、ユニットバス・洗面所・台所などの機能が備わっている住居のことである。一方、「完成しない住居」の住まい方は、住人の生活が住居の中で完成しないことである。匚民とは、完成しない住居の住人のことである。調査の中で、匚民は特定の家を持たずに、街のあらゆる場所や機能に依存していることがわかった。卒業論文を踏まえ、街に寄生する人々の住居を設計した。

年	1970	1980	1990	2000	2010	2020
建築時代	戦前	戦後	高度成長期	バブル	平成	令和
建築家	磯野松之助	丹下健三	丹下健三	丹下健三	丹下健三	丹下健三
建築形式	木造	木造	木造	木造	木造	木造
特徴	木造	木造	木造	木造	木造	木造

表1 匚民の歴史

現代の一般的な住居は「インフラ」と「家の役割を持つ空間」を供給する役割がある。研究を通して、人々はインフラ(水道ガス電気)は街に依存する必要があるが、家の役割を持つ空間は街のどこにも見出すことが可能になり、自由自在に増殖することができると考えた。最初に、インフラを供給する役割を担った「本庄湯」に匚民が住み着く。その後、匚民は自ら「家」となる空間を増殖を始める。増殖の過程で、既存の街の機能も成長を始める。そして「増殖・成長部分」に匚民が住み着き、集落が形成される。



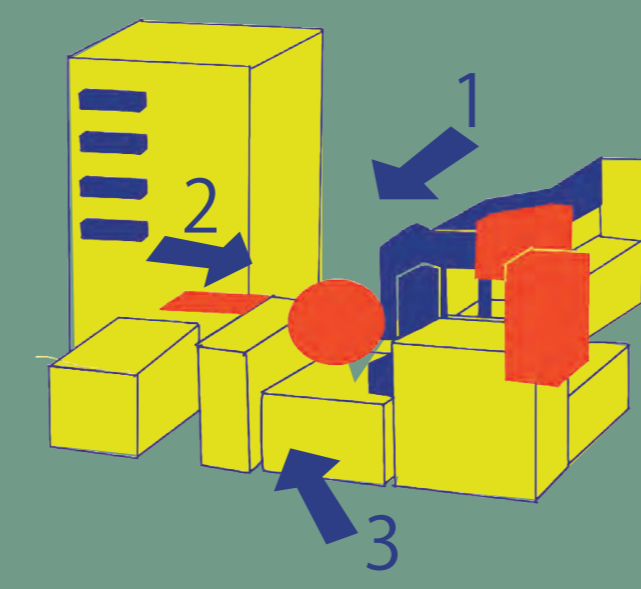
匚民が街に住み着く形は、メタボリズムからインスピレーションを得た。中核カプセルは頑強なコアに組み換え可能なカプセルが取り付くが、本設計では流動的なコア(街)にカプセルが取り付く仕組みとなっている。

(左)図2 本設計イメージ
(右)中核カプセルタワー S=1/200



街に取り付く匚民は寄生の過程で空間を増殖を始める。増殖された空間(家)は街の一部となる。

匚民はそれぞれの匚(カプセル)から成長・増殖空間にアクセスする。街の人々は下記の1・2・3の既存の動線から街にアクセスする。



- 1: 駐車場
- 2: マンションの片廊下
- 3: 本庄湯の玄関



←対象地:
〒810-0021 福岡県福岡市中央区今泉1丁目3-10 銭湯「本庄湯」

最初の寄生は、銭湯「本庄湯」。

←(左)対象地 S=1/2000

(右)本庄湯正面画像

(右)本庄湯背面画像

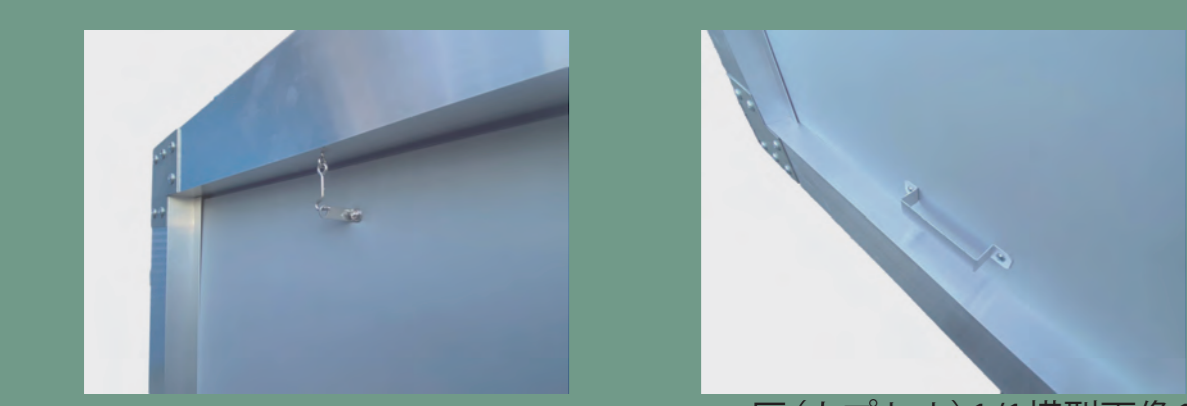
→(上)パース1

(下)パース2

(下左)模型内部画像

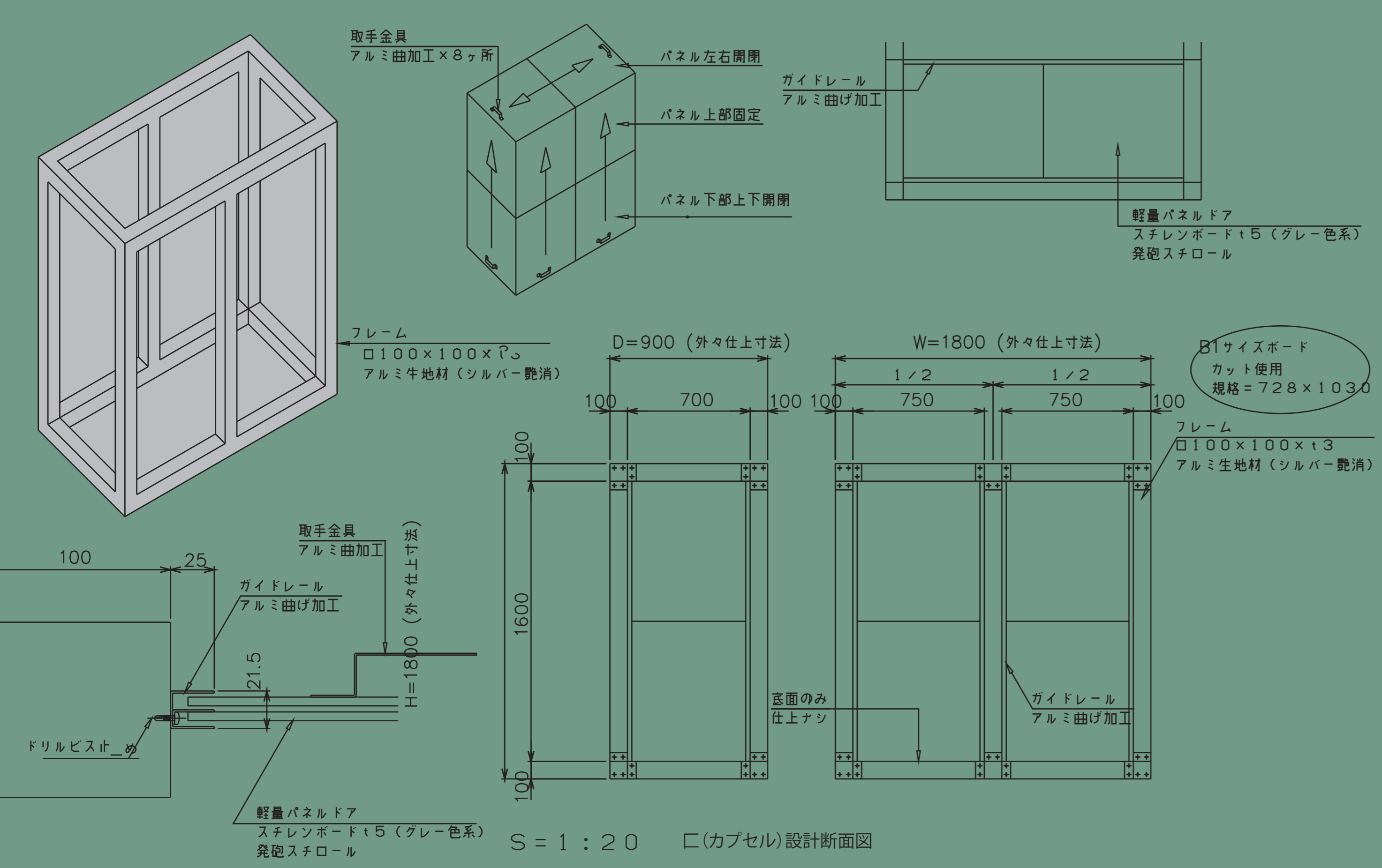
匚(カプセル)は匚民の最低限の拠点である。大きさや機能が未完成な空間が街に取り付くことにより、匚の外側に「家」を求める。

匚民は街に住み着き、街を増殖・成長させ共生することで生きていく。増殖・成長部分はやがて街の一部になる。匚民は地震の拠点となるカプセルから増殖・成長した街(家)にアクセスし、街の人々は既存の機能から増殖・成長した街にアクセスする。

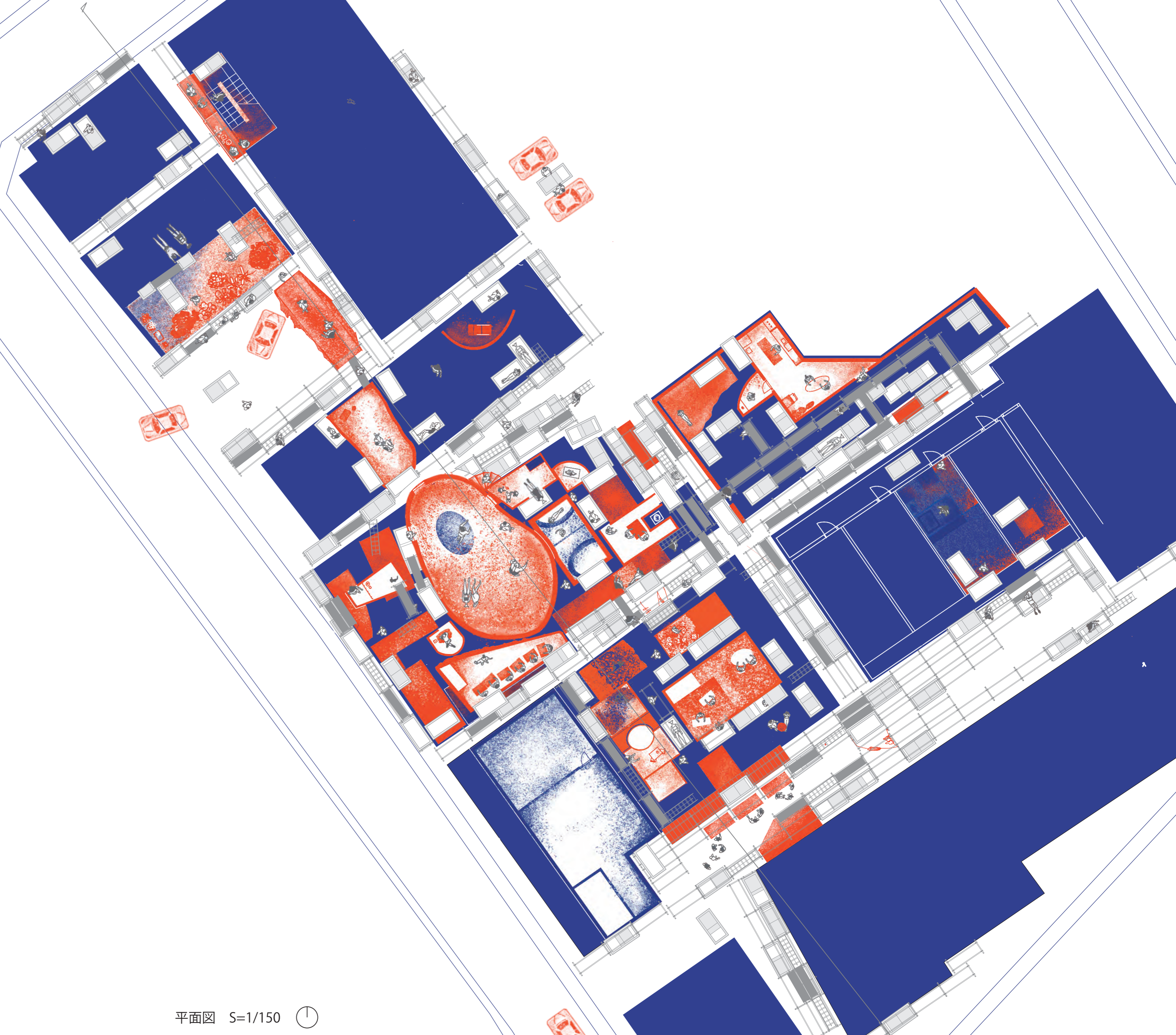


匚(カプセル)1/1模型画像1

匚民は寄生を始める時、(くさび型)足場を固め、匚(カプセル)を据え付ける。



S=1:20 匚(カプセル)設計断面図



平面図 S=1/150